

新宮熊野神社の大イチヨウ

イチヨウは、前世紀の生き残りの植物で、昔中国から日本へ渡来したといわれている。

当市では、熊野神社のイチヨウが最大のものである。古木の象徴である「チチ」が数本たれさがり、当社の神木となっている。台風で主幹が折れてしまったが、折れる前には、遠く会津若松市からもその雄姿が望めたといわれている。

高さは三〇メートル、根元の周りは八・一メートルで、その植栽の由来は明らかでないが、樹齢は六〇〇年ともいわれている、今なお樹勢は盛んである。

いちようーいちよう科

所在地 慶徳町新宮字熊野 熊野神社

指定年月日 昭和四十三年七月十二日



二軒在家の大クリの木

このクリの木は、高さが約一五メートル、根元の周りが五・三五メートル、胸高の周りが五メートルの太木である。

地上二メートルのところから、四方に枝を広げ、東に約一〇メートル、西に約一二メートル、南に約二五メートル、北に約二五メートルの枝張りがある。

クリの寿命は、二〇〇年と言われているが、古老の話などから二〇〇年は下らないものと推定されている。このような老樹が毎年実を結び収穫できるのはたいへん珍しく、学術的にも貴重なものである。

くりーぶな科

所在地 岩月町宮津字惣社原 瓜生次男氏所有

指定年月日 昭和四十三年七月十二日

